令和５年度台湾人介護専門家研修事業
訪日研修報告書

日本台湾交流協会では日台共通の重要課題である高齢化対策として、日本の介護技術・介護産業の台湾への展開・普及、台湾における介護労働従事者の社会的地位の向上と高度専門人材の育成を目的とした台湾人介護専門家研修事業を平成30年度から実施しております。令和５年度は、４年ぶりに介護施設での実習も再開し、８名の介護施設責任者（介護士、栄養士等）が約６週間、長野県にある佐久大学と佐久市内の施設で研修を受けました。日本での研修をどのように感じ、また研修での成果を台湾でどのように生かしていく計画を立てているかご紹介したく、１名の報告書の日本語訳を掲載します。

他の研修者の報告内容につきましても、ぜひ当協会のサイトでご確認ください。https://www.koryu.or.jp/business/public/

私立宥安居家長照機構（台東県）行政監督
潘盈蓁

まずは日本台湾交流協会が今回の訪日研修の機会を与えて下さったこと、アジアン・ワイズ社が研修の周到な手配をしてくださったこと、佐久大学のプロフェッショナルな教師陣のご指導に感謝を申し上げます。日本における38日間の研修訓練で、日本の長期介護制度を深く理解し、佐久地域のケアシステムを学ぶことができました。研修期間中は、関連施設で使う常用介護日本語を理解するだけでなく、研修で得た知識を実際の実習作業に応用しつつ、振り返りと検討を繰り返しました。より多くの素晴らしいケア理念と方針を台湾に持ち帰り、思いやりと温かみにあふれた、地域全体のケアシステムを構築したいと思っています。また、今回の研修では、高齢者介護と認知症患者への思いやりあふれるモデルへの理解を深め、認知症患者の尊厳と彼らとの意思疎通のこつを重視する姿勢を深く感じ取ることができましたが、これは、台湾と大きく異なる点でした。

研修中は、様々な機関を視察し、日本特有のサービスモデルや文化をより深く理解することができました。布施屋と結いの家等への訪問では、多機能型ショートステイと全日型宿泊ケア施設の統合

施設での活動は自宅にいるかのよう

温かみがあり、施設には見えない布施屋の外観

成功モデルを見ることができました。特出する点としては、高齢者の尊厳を尊重し、多職種連携でスムーズに情報共有することにより、高齢者の状態は全方面から見守られており、各分野の専門家の業務を統合した個別ケアプランが、高齢者の身体機能と生活の質を向上させていたことです。このモデルでは、高齢者のニーズに近づけたケアプランを提供するだけでなく、ニーズへの全面的な考慮と心遣いが展開されており、介護サービスの多元化と高齢者の尊厳を尊重することの重要性を深く認識することができました。今回の経験は、今後の高齢者介護分野における私の努力指針となると思います。よりよいサービスに応用し、台湾における地域ケアシステムをより完璧なものに発展させていきたいと思います。

施設実習

布施屋での実習中、日本のデイケアサービスの運用モデルを深く理解することができました。施設のサービスフローは微に入り細にわたり人間性に富み、特に入浴手順は、尿管や腸ろうの有無にかかわらず、十分かつ快適な入浴時間が満喫出来るようになっていました。私と一緒に作業をした介護士は、プロフェッショナルであるだけではなく、ケアする過程においても、細やかな注意事項や思いやりについて伝授してくれました。高齢者に温かく、忍耐強く対応すること、ケアの細部にまで気を配ること、さらには高齢者の行為を尊重することといったケアスタイルに深い影響を受け、私自身の今後の介護目標に全く新しい啓発となりました。

結いの家特養施設の実習では、看護師の職責に

ショートステイが必要な高齢者には温かみのあるデザインの部屋が提供される

食事も入浴スペースも、自宅にいるようにくつろげるデザイン

傷口の処理、服薬の管理から健康管理までもが含まれていることを知りました。特に挙げたい情報として、看護師は、介護者が高齢者一人ひとりのニーズを把握できるように、施設入居前の情報を含むデータを非常に細かく記録・収集していたことが挙げられます。服薬する人の名前､服薬日時、服薬方法が全て明確に包装材に明記された薬品管理の形式化も印象的でした。特養施設のケアプランは、台湾におけるソーシャルワーカーの個別化サービスプランのように、介護目標と作業分担の明確化の一助となります。こうした形式化された管理方法から、今後の台湾の施設における記録ノートのデザインをより効率的なものに応用する方法について考えさせられました。

この二つの施設での実習において、布施屋のデイケアの人間的なケアと、結いの家特養施設のシステマティックな管理方式は、いずれも参考に値するものであり、深く感動しました。特に台湾におけるケアサービスをどうやって高齢者のニーズに近づけるかという点においては、具体的なアイデアも浮かびました。佐久市と私が働く台東県全体の地理的環境の相似性から、両地域の協力関係を促進し、台東の長期介護サービスの品質向上を図ることができないかと考えています。今回の実習経験により、台湾の介護分野はさらに進歩・発展できるものと期待しています。

現状における日台間の違い

日本と台湾の認知症ケアの現状を比較すると、両者には明らかな違いがあります。日本では、認知症の高齢者の尊厳を尊重することを強調し、豊富で多彩な創造的なプログラムと療法を提供して

おり、また、完璧なケアシステムとハイレベルな専門人材を配した優良なケアが確保されています。また、家族の参与もそのケアモデルの中の重要な一環です。対する台湾では、日本のこうした尊厳と尊重の強調、ケアする側のコミュニケーション技術の強化、家族の参与の奨励並びに創造的プログラムと療法を増やす点は大いに参考になります。それとともに、今より一層人間性のある完璧な長期介護システムにレベルアップをさせて関連分野の研究と政策制定を推進していけば、認知症高齢者のニーズに対応できるようになると思われます。

日本の介護方式との比較を通じ、台湾での生活リハビリと介護分野の改善点を発見することができました。現在、台湾では、日本に類似した中間施設がなく、専門的なリハビリサービスは統一規格と多職種連携に欠けていて、それが効果にも影響しています。日本では、コミュニケーションと介護マナーの分野において、良好なコミュニケーションが非常に重要であると強調していますが、台湾の介護人材は、常に多すぎる文書処理や就労ルールにより、往々にして作業を素早く完了させることが最優先となってしまい、高齢者への対応には温かみに欠け、彼らの心理的要求にまで対応出来ない状況にあります。また、日本の長期介護サービスでは、高齢者の尊厳と自立能力の尊重をより強調していました。

このように比較することで、私は日台双方の介

護モデルと価値観の違いを意識すると同時に、台湾の介護システムの改良の余地に気づきました。台湾で強化すべきなのは、尊重、尊厳、コミュニケーション技術、家族の参与といった点です。日本の経験から学んだこれらのことは、今後の台湾の高齢者介護システムの発展に深く影響していくことと思います。

今後への期待

今回の貴重な研修経験によって、特に多職種連携と高齢者の尊重といった分野での日本の介護システムの卓越した進歩を深く理解しました。日本に比べて台湾の介護システムには、まだ多くの学びと改善の余地があります。今後、介護人材の訓練を強化し、尊重と尊厳についての認識を深めさせ、同時に多職種連携と家族の参与を促進していき、国際的に最良の実践モデルを鑑にして専門レベルを向上させていけば、台湾の高齢者介護システムは、より一層完全なものとなるでしょう。

今回の研修では、能力の衰えた高齢者の尊厳を尊重し､支援することが良質な介護を提供するキーポイントだということを強く意識しました。日本で学んだモデルと価値観を台湾の地元のサービスに溶け込ませることで、現地の高齢者のニーズにより近づく長期介護システムを構築できるものと期待しています。こうした改良によって介護の質を向上できるばかりか、台湾全体の高齢者は、周到かつ尊重される介護サービスを受けられるようになるでしょう。

貴重な研修機会を与えた下さった関係者の方々に改めて感謝申し上げます。